「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校，中学校）

第３編　単元ごとの学習評価について（事例）

【案】

第１章　「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成
１　本編事例における学習評価の進め方について
２　単元の評価規準の作成のポイント

第２章　学習評価に関する事例について
１　事例の特徴
２　各事例概要一覧
事例

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第１章　「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

１　本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり，まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で，学習指導要領の目標や内容，「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の考え方等を踏まえ，以下のように進めることが考えられる。なお，複数の単元にわたって評価を行う場合など，以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

評価の進め方	留意点
１ **単元の目標を作成する** ↓ ２ **単元の評価規準を作成する**	○　学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。 ○　生徒の実態，前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。
↓ ３ **「指導と評価の計画」を作成する**	○　１，２を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。 ○　どのような評価の資料（生徒の反応やパフォーマンスなど）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。
↓ **授業を行う**	○　３に沿って観点別学習状況の評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
↓ ４ **観点ごとに総括する**	○　集まった評価の資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。

２　単元の評価規準の作成のポイント

外国語科では、前述の通り、学習指導要領においては言語「英語」の目標を五つの領域別で示しており、学年ごとの目標を示していない。「指導計画の作成及び内容の取扱い」において、各学校において学年ごとの目標を設定することとしている。

このため、上記の「教科目標」「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準等」に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」を設定した上で、単元ごとの評価規準を作成する場合の基本的な考え方を示す。

学年ごとの目標及び評価規準の設定

・各学校においては、「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、各学校における生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を適切に定める。
・五つの領域別の「学年ごとの目標」は、領域別の目標を踏まえると、各々を資質・能力の三つの柱に分けずに一文の能力記述文で示すことが基本的な形となる。なお、五つの領域別の学年別目標の設定は、これまでも中学校・高等学校においては「ＣＡＮ－ＤＯリスト形式」による学習到達目標の作成及び活用として、すでに各学校で行われてきたところである。
・一方で、「学年ごとの目標」に対応する評価規準は、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する必要がある。学年別目標から評価規準を作成する手順は、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の場合と基本的に同じである。

単元ごとの目標及び評価規準の設定

・単元ごとの目標は、学年ごとの目標を踏まえて設定する。
・単元ごとの評価規準は、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」「学年ごとの評価規準」と同様に、単元ごとの目標を踏まえて設定する。
・単元ごとの目標及び評価規準は、各単元で取り扱う題材、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的・場面・状況、取り扱う話題などに即して設定することになる。
・具体的には、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」を元に、以下のような手順で作成することが可能である。
・これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

「読むこと」の場合

○「知識・技能」の評価規準について

＜知識＞

・「【言語材料】の特徴やきまりに関する事項を理解している。」が基本的な形になる。
・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。言語材料の種類に応じて「○○を用いた

文の構造を理解している」や「〇〇の意味や働きを理解している」などに適宜置き換えて当てはめる。

＜技能＞

・「【言語材料】などを活用して、【話題】について【書かれた文等】の内容を読み取る技能を身に付けている。」が基本的な形となる。

・【話題】には、当該単元の中心となる言語活動（以下「当該単元の言語活動」と言う）で扱う話題等が入る。

・【書かれた文等】には、「（【話題】について）書かれた文章」や、「（【話題】について）の物語文」、「（【話題】について）の広告」、「（【話題】について）の手紙」などが入ることが考えられる。

〇「思考・判断・表現」の評価規準について

（ア）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】から、必要な情報を捉えている。」が基本的な形となる。

・【目的等】は、当該単元の中心となる言語活動において設定する目的、場面、状況を、「〇〇に応じて」「〇〇するよう」等の形にして当てはめる。その際、学習指導要領に示されている「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。

（イ）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要を捉えている。」が基本的な形となる。

（ウ）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、要点を捉えている。」が基本的な形となる。

〇「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準について

（ア）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】から、必要な情報を捉えようとしている。」が基本的な形となる。

（イ）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要を捉えようとしている。」が基本的な形となる。

（ウ）

・「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、要点を捉えようとしている。」が基本的な形となる。

※言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている様子については、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて評価する。

【「読むこと」イの評価規準の設定例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準（設定例）	＜知識＞ 時間の経過を表す語句の意味や働き（言語材料）を理解している。 ＜技能＞ 時間を表す語句などの意味や働き（言語材料）の理解を基に、歴史上の人物の人生（話題）について書かれた文章（書かれた文等）の内容を読み取る技能を身に付けている。	文章の大まかな流れを時間軸（目的等）に沿って書きまとめるために、歴史上の人物の人生（話題）について書かれた文章（書かれた文等）の概要を捉えている。	文章の大まかな流れを時間軸（目的等）に沿って書きまとめるために、歴史上の人物の人生（話題）について書かれた文章（書かれた文等）の概要を捉えようとしている。

「話すこと［やり取り］」の場合

○「知識・技能」の評価規準について

＜知識＞

・「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。

・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。

・言語材料の種類に応じて、適宜「○○を用いた文の構造を」や「○○の意味や働きを」などの形で当てはめる。

＜技能＞

（ア）

・「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を即興で伝え合っている。」が基本的な形となる。

・【事柄・話題】には、当該単元の中心となる言語活動（以下「当該単元の言語活動」と言う）で扱う事項や話題等が入る。

・【内容】には、当該単元の言語活動で伝え合う、【事柄・話題】に関する事実や自分の考え、気持ちなどが入る。

（イ）

・「【事柄・話題】について、【内容】を整理し、【言語材料】などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。」が基本的な形となる。

・【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、身近な話題等が入る。

（ウ）

・「【事柄・話題】について聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。

・【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、社会的な話題等が入る。

※＜技能＞の（ア）（イ）（ウ）のいずれについても、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたりすることができる状況を評価するのではなく、使用する言語材料料の提示がない状況において、既習の言語材料を用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けている状況を評価することに留意する。

○「思考・判断・表現」の評価規準について

（ア）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を即興で伝え合っている。」を基本的な形となる。

・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動の中で設定するコミュニケーションを行う目的、場面、状況（以下「目的等」という。）を、「〇〇に応じて」「〇〇するよう」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。（イ）（ウ）も同じ。

（イ）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。」が基本的な形となる。

（ウ）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成の仕方について

（ア）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。

（イ）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。」が基本的な形となる。

（ウ）

・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が基本的な形となる。

※言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている様子については、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて把握する。

【「話すこと[やり取り]」イの評価規準の設定例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準（設定例）	＜知識＞ 助動詞 can や疑問詞 when を用いた文の構造（言語材料）を理解している。 ＜技能＞ 町や地域について（話題）、事実や自分の考え、気持ちなどを（内容）整理し、助動詞 can や疑問詞 when など（言語材料）の簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	外国の人に「行ってみたい」（目的等）と思ってもらえるように、町や地域のことについて（話題）、事実や自分の考え、気持ちなどを（内容）整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	外国の人に「行ってみたい」（目的等）と思ってもらえるように、町や地域のことについて（話題）、事実や自分の考え、気持ちなどを（内容）整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

以上のような評価規準に照らして各単元等で評価した各領域の評価結果を，観点別評価に総括する方法を以下に示す。なお、ここで示すのは学年末に指導要録における観点別評価に総括する方法であるが、ここで示す考え方は各学期で総括する際に活用することができる。

（例）

ペーパーテスト等の結果（活動の観察の結果を加味）

パフォーマンステストの結果（活動の観察やペーパーテスト等の結果を加味）

	聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと	観点別評価	評定
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・表現	b	b	c	b	c	B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	c	B	

自己評価（振り返りの記述内容）を参考

※「ペーパーテスト等」とは，ペーパーテスト（期末テストや単元テスト等）の他，言語活動の

際に用いるワークシートを指す。「活動の観察」とは，単元終末の言語活動やそれに至るまでの言語活動の観察を指す。

※「知識・技能」のうち「知識」（音声に関することは除く）については，領域を問わずペーパーテスト等により評価することが考えられる。（事例４参照）

※評価情報（表中のｂやｃ）は，従来の評価の方法同様，主に三つの方法（ペーパーテスト等，パフォーマンステスト，活動の観察）から得ることができる。評価情報を得る方法は各事例参照。

※学期単位で総括する際は，全ての評価情報を得ることができない場合が考えられる（例：「話すこと」の［やり取り］の評価情報は得たが［発表］は得ていない）が、学年末に総括する際には全ての評価情報が得られていることが必要となる。

※ここで示しているのは各領域・観点の評価情報を得るための評価方法の例であり，必ずしもこの通りの方法でなければならないわけではない。

「知識・技能」は，「b，b，c，c，b」となっていることから，「b」と「c」の数の比率に鑑み，「B」と総括している。なお、学期単位で総括する場合であれば，当該学期で重点を置いて指導した領域の結果を重視して総括するという方法も考えられる。例えば「話すこと［やり取り］」及び「話すこと［発表］」に重点を置いて指導したのであれば、これらの領域の「c」という結果を踏まえ「C」と総括することが考えられる。なお、重点を置いて指導した領域の結果を重視するという考え方は、他の観点においても同様である。

「思考・判断・表現」は，「b，b，c，b，c」となっているため，数の比率を踏まえると「B」と総括することが考えられるとともに，授業における言語活動の観察の結果を加味し「B」と判断することが妥当と考え「B」と総括している。

「主体的に学習に取り組む態度」は，「b，b，b，b，c」となっているため，数の比率から「B」と総括している。

第２章　学習評価に関する事例について

１　事例の特徴

第１編第１章２（４）で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ，平成 29 年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう，本参考資料における各教科の事例は，原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○　単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに，生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は，いずれも，単元の評価規準の設定から，最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに，評価結果を生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお，各教科とも事例の一つは，この一連の流れを特に丁寧に示している。

○　観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では，学習評価については，日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり，観点別の学習状況については，毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに，それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど，その場面を精選することが重要であることが示された。このため，観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について，「指導と評価の計画」の中で，具体的に示している。

○　評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で，ワークシートやパフォーマンスなどの評価材料をどのように活用したかなど，教科の特性に応じて，評価方法の多様な工夫について示している。

２　各事例概要一覧

事例１　キーワード　「話すこと［やり取り］」における各観点の一体的な評価

「読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う」（第３学年）

・教科書の３つの単元を通した指導と評価について、第３学年の１学期を例にして示している。
・３つの単元の指導と評価の計画を示している。加えて、３つの単元から一つの単元を取り出し、当該単元の指導と評価の計画も示している。
・学期末に行うパフォーマンステストの実施方法や採点の基準、生徒の発話例等を示している。
・パフォーマンステスト実施後に行うことが望ましい指導の方法を示している。

事例２　キーワード　「読むこと」における「思考・判断・表現」の評価

「まとまりのある文章の概要を捉える」（第２学年）

・第２学年２学期を例に、当該単元における目標例及び評価規準例を、第２学年の２学期を例に、当該学年の目標例及び評価規準を踏まえて設定している。
・「読むこと」における「思考・判断・表現」とは「何を」「どのように」「いつ」見取ることができるかについて例示している。具体的には、学期末に実施される定期考査における「思考・判断・表現」を評価するための「読むこと」の問題例、評価規準及び評価基準、当該問題を作成するための手順と作成上の留意点を示している。
・「読むこと」における「思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導例を示している。

事例３　キーワード　「聞くこと」における「思考・判断・表現」の評価

「まとまりのある文章の必要な情報を捉える」（第２学年）

・複数のレッスン等を一つの単元と捉え、第２学年２学期を例に、当該単元における目標例及び評価規準例を、第２学年の目標例及び評価規準例を踏まえて設定している。
・「聞くこと」における「思考・判断・表現」とは「何を」「どのように」「いつ」見取ることができるかについて例示している。具体的には、学期末に実施される定期考査における「思考・判断・表現」を評価するための「聞くこと」の問題例、評価規準及び評価基準、当該問題を作成するための手順と作成上の留意点などを示している。
・「聞くこと」における「思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導例を示している。特に、教科書本文を聞かせる際の発問例を複数示している。

事例４　キーワード　「知識・技能」の評価

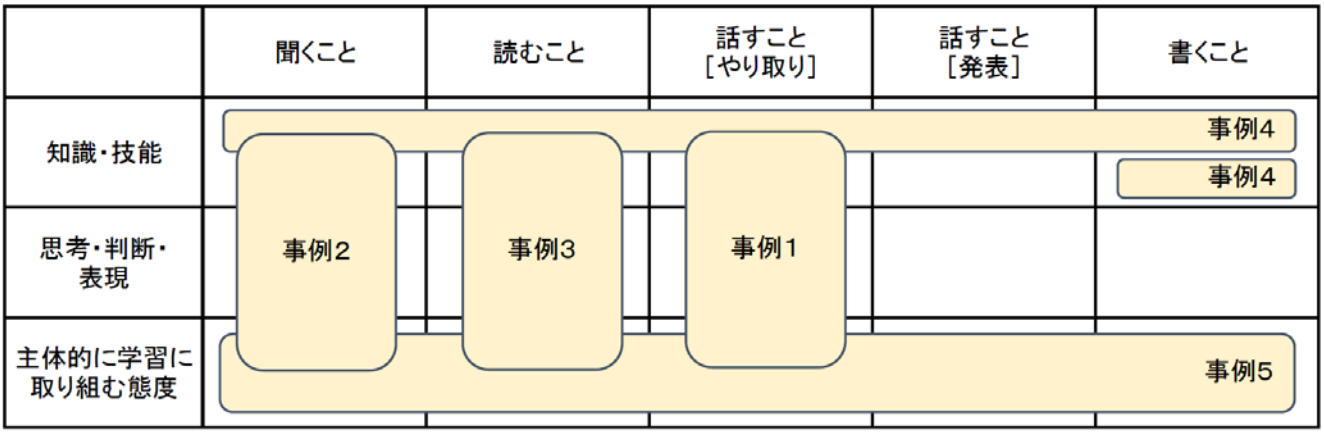
「外国の人に自分たちの学校を紹介しよう」（人称と現在形及び現在進行形）」（第１学年）

・第１学年１学期を例に、当該単元における目標例及び評価規準例を、第１学年の目標例及び評価規準例を踏まえて設定している。
・全領域（全「内容のまとまり」）に共通する「知識・技能」とは「何を」「どのように」「いつ」見取ることができるかについて例示している。具体的には、学期末に実施される定期考査における「知識・技能」を評価するための問題例、評価規準及び評価基準、当該問題を作成するための手順

と作成上の留意点などを示している。
・「知識・技能」の評価の総括について例示している。

事例５　キーワード　「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「関心のある話題や身近な出来事について、自分の考えや気持ちを伝え合う」（第１学年）
・複数のレッスン等を一つの単元と捉え、第１学年１学期を例に、当該単元における目標例及び評価規準例を、第１学年の目標例及び評価規準例を踏まえて設定している。
・「主体的に学習に取り組む態度」とは「何を」「どのように」「いつ」見取ることができるかについて例示している。「自己調整」については、自己の学習を振り返らせる際の「振り返りの視点」及び生徒の振り返り例を踏まえた評価基準を例示している。
・「主体的に学習に取り組む態度」を涵養するための指導の方途例を示している。

以上５つの事例が、いずれの観点及び領域を扱っているかを図で示すと以下のようになる。



事例2，3は、主に「思考・判断・表現」の評価の方法等について示している。
事例4は，以下の二つの評価の方法等について示している。
・特定の言語材料に関する「知識」（音声に関することは除く）に焦点を当てて評価する方法
・特定の言語材料に関する「技能」に焦点を当てて評価する方法（「書くこと」の場合）

外国語科　　事例１ キーワード 「話すこと［やり取り］」における一体的な評価	単元（題材）名 読んだことについて，事実や自分の考え，気持ちなどを伝え合う 第３学年，１学期　話すこと［やり取り］

※本事例における「課」とは，教科書のレッスンやユニット等の単元のことを指す。他の事例も同様。

１　「話すこと［やり取り］」における第３学年の目標及び評価規準

（１）目標

日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

※［やり取り］の「ア」「イ」「ウ」ごとに目標を設定することも考えられる。

（２）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
［知識］ 学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ［技能］ 実際のコミュニケーションにおいて，日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，事実や自分の考え，気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，事実や自分の考え，気持ちなどを，簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，話し手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。

２　１課から３課を通して育てたい「話すこと［やり取り］」の能力

日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史，世界遺産，リサイクルなど）について書かれた文章を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合うことができる。

（参考）１課から３課をまとめて目標及び評価規準を設定する場合，以下のようになる。

■目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために，日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史，世界遺産，リサイクルなど）について書かれた文章を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合うことができる。

■評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
［知識］ 受け身や現在完了形などの特徴や決まりを理解している。 ［技能］ 日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史，世界遺産，リサイクルなど）について考えたことや感じたこと，その理由などを，受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身につけている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために，日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史，世界遺産，リサイクルなど）に関して読んだことについて考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために，日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史，世界遺産，リサイクルなど）に関して読んだことについて考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合おうとしている。

※実際の指導と評価に当たっては，「読むこと」や「書くこと」などの評価規準も設定することが考えられる。

３　単元の目標と評価規準

※例として１課の目標と評価規準を示す。２課と３課については，扱う言語材料と話題等が変わるが他の部分は１課と同じになる。

（１）目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想を書きまとめるために，野菜の歴史について書かれた英文を読み，読んだことを基に考えたことや感じたことを，英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

※以下，「英文を引用したり内容に言及したりする」を，「英文を引用するなど」という。

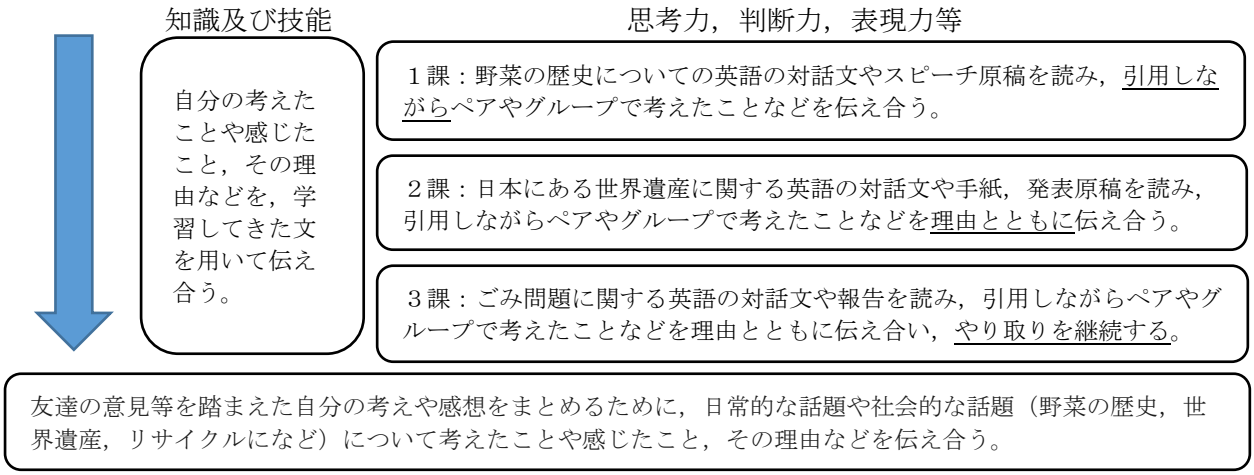
（２）評価規準（「話すこと［やり取り］」に関する評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
［知識］ 受け身や現在完了形の特徴やきまり，引用するための表現を理解している。 ［技能］ 野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを，受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身につけている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために，社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて，考えたことや感じたことなどを，英文を引用するなどして伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために，社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて，考えたことや感じたことなどを，英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

※実際の指導に当たっては，「読むこと」や「書くこと」の評価規準も設定することが考えられる。

４　指導と評価の計画

本事例では，１課から３課を通じて，日常的な話題や社会的な話題の英語の文章を読み，読んだことに基づいて考えたことや感じたこと，その理由などを，文を用いて伝え合うことができるようにすることを目標としている。そのため，①教科書を読んだ後に，ペアで考えたことや感じたこと，その理由を伝え合う「話すこと［やり取り］」の言語活動を継続的に実施する。②ペアでの言語活動の後で，友達の意見等を踏まえた自分の意見や感想をまとめるという目的意識を持たせるようにする。③自分の考えなどを伝える際には，受け身や現在完了形などの学習してきた文を用いて伝え合うようにする。下の図は１課から３課までの指導の考え方を示している。



各課の指導と評価の計画

時間	課	目標（■）及び主な言語活動（●）	評価
1 ～8	1課	■友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために，野菜の歴史について書かれた英文を読み，読んだことを基に考えたことや感じたことなどを，英文を引用するなどしながら伝え合うことができる。	
		●対話文やスピーチ原稿を読んだ後に，ペアやグループで考えたことや感じたことなどを，英文を引用するなどしながら伝え合う。その後で，ペアで話した内容を踏まえ自分の考えなどを書く。なお，単元を通して，毎時間の冒頭に帯活動として身近な話題に関する「話すこと［やり取り］」の言語活動（Small Talk）を行う。	・本単元の最後の授業における言語活動において，評価規準に照らした評価を活動の観察により行う。（詳細は後述） ・１課から３課を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために後日パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）
9 ～16	2課	■友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために，世界遺産について書かれた英文を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら伝え合うことができる。	
		●対話文，手紙，発表原稿を読んだ後に，ペアやグループで考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合う。その後で，ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。なお，単元を通して，毎時間の冒頭に帯活動として身近な話題に関する「話すこと［やり取り］」の言語活動（Small Talk）を行う。	・本単元の最後の授業における言語活動において，評価規準に照らした評価を活動の観察により行う。 ・１課から３課を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために後日パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）
17 ～24	3課	■友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために，リサイクルについて書かれた英文を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら対話を継続して伝え合うことができる。	
		●対話文やメールを読んだ後に，英文を引用するなどしながら，ペアやグループで考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合い，やり取りを継続する。その後で，ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。なお，単元を通して，毎時間の冒頭に帯活動として身近な話題に関する「話すこと［やり取り］」の言語活動（Small Talk）を行う。	・本単元の最後の授業における言語活動において，評価規準に照らした評価を活動の観察により行う。 ・１課から３課を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために後日パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）
後日		初見の英文を読み，やり取りを行うパフォーマンステストを実施する。（詳細は後述）	

※実際の指導に当たっては，上記のような長いスパンの見通しをもった上で，各単元の指導と評価の計画を作成する。参考までに１課の指導と評価を以下に示す。

（参考）１課の指導と評価の計画

以下の表中「○」が付されている時間は極力全員の学習状況を記録に残すよう努めるが，確実に全員分の記録を残すのは学期末のパフォーマンステスト及びペーパーテストの機会とする。なお，○が付されていない授業においても，指導の改善や生徒の学習改善に生かすために生徒の学習状況（例：受け身を使って考えを話すことができているか，引用しながら考えを話しているか）を確認することは重要である。確認結果は単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができる。

時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元の目標を理解する。 ■教科書の対話文を読み，引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。 ②対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解する。 ③英文の引用するための英語表現を学ぶ。（Student A says, “～”/According to Student A, …. など） ④再度，対話文の内容に関して，引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。 ⑤ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。				①自分の考え等を伝える際は，語句ではなく文で伝えさせる。②後日行うパフォーマンステストに向け，「帯活動」で，身近な話題に関する「話すこと［やり取り］」の言語活動（Small Talk）に取り組ませ，相手の話に関わらせたり質問したりすることに取り組ませる。
2	■対話文を読み，引用するなどしながら，考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①受け身を使って作成された教科書本文とは別の対話文を読み，引用しながら，考えたことや感じたことを受け身の英文を使ってペアで伝え合う。 ②再度，対話文の内容に関して，引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。 ③ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。				
3	■教科書の対話文（第１時で読んだ対話文の続き）を読み，引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。 ②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形（肯定文）の構造と意味を理解する。 ③前時までに学んだ引用方法を確認し，それを意識して再度，対話文の内容に関して，引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。 ④ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。				
4	■対話文を読み，引用するなどしながら，考えたことや感じたことを伝え合う。				

	①現在完了形（完了用法・肯定文）を使って作成した教科書とは別の対話文を読み，引用などしながら，考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。 ※②以降は第３時の③，④と同じ。				
5	■教科書の対話文とレポート（第３時で読んだ対話文の続き）を読み，引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の対話文とレポートを読み，引用しながら自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。 ②対話文等で使われている未知の語の意味や現在完了形（完了用法，否定文・疑問文）の構造と意味を理解する。 ※③以降は第３時の③，④と同じ。				
6	■対話文や文章を読み，引用するなどしながら，考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①現在完了形（完了用法の否定文，疑問文）を使って作成した教科書とは別の対話文や文章を読み，引用しながら考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。 ※②以降は，第３時の③，④と同じ。				
7	■ピクチャー・カードを使い，受け身や現在完了形などを正しく用いながら，教師や ALT に教科書の全ての本文内容について説明する。 ①ペアになり，相手を教師や ALT にみたてて，教科書本文内容についてピクチャー・カードを使いながら説明する。 ②一人一人が教師や ALT に教科書本文内容を説明する。	○			・「注」①参照
8	■初見の文章を読み，引用するなどしながら考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合う。 ①スピーチ原稿を読み，考えなどをペアで伝え合う。 ②ペアで話した内容を書く。	○	○	○	・「注」②参照 ・本時の評価に加え後日パフォーマンステストを実施

注：

①教師は１回につき４人（２ペア）を観察し，「知識・技能」の評価規準に関して，受け身や現在完了形を使用しなくてはならない文脈で用いることができるかを観察する。

②以下のとおり評価する。

・初見の文章を読み，読んだことについて，引用するなどしながら考えたことや感じたことなどをペアで３分程度伝え合う。その後，ペアを複数回変え，やり取りをさせる。

・教師は１回につき，４人（２ペア）を観察し，本課の評価規準（「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」）に照らして評価する。十分な発話がない生徒がいた場合には，新しいペアにおけるやり取りを観察する。

・第８時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにする。「知識・技能」の評価については，現在完了形や受け身の使用がみられなかった場合，第７時の観察の結果を加味することが考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については第８時だけに限らず日々の授業における言語活動への取組状況を勘案する。（事例５参照）

５　パフォーマンステストについて

（１）内容

「AI の進歩と私たちの生活」（以下「AI の進歩等」という。）に関する記事（article）を読み，読んだことに基づいて考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合う。

（２）準備する課題

次の指示文が印刷された用紙を準備しテスト前に配付する。

「AI の進歩と私たちの生活」というテーマについて，友だちの意見等を踏まえた自分の意見や感想を伝え合うことになりました。そこで，下の記事［Article about AI］の内容に基づいてペアでやり取りをしてください。読む時間は 3 分です。

［Article about AI］

People have created a lot of things throughout history.

These days, AI robots are used in some areas of our daily lives.　AI products have changed our lives and will change ones in the future, too.　It is easy for us to get better lives with AI. There are already some AI products around us, and new one will be made.　For example, an AI fridge will be made in the near future.　The fridge will tell us what to cook with the food in it.

AI will change our lives so much in the future.

（３）採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	「b」に加えて，自分の考えなどの詳細を話したり，様々な視点から質問したりしている。	「b」に加えて，自分の考えなどの詳細を話したり，様々な視点から質問したりしようとしている。
b	誤りが一部あるが，コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	Ken のレポートを読んで，①英文を引用するなどしながら，②AI の進歩等について考えたことや感じたことその理由などを話したり，③相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続させている。	Ken のレポートを読んで，①英文を引用するなどしながら，②AI の進歩等について考えたことや感じたことその理由などを話したり，③相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続させようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「思考・判断・表現」について，単元を通して指導したことを踏まえて以下の 3 つの条件を全て満たしていれば「b」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ，全ての条件を満たしていれば「a」，２個なら「b」，１個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件１：読んだ英文を引用するなどしている。
条件２：自分の考えたこと，感じたこととその理由を述べている。
条件３：相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

※音声に関することも「知識・技能」の基準に含むことが考えられる。その場合，３課を通じて音声に関する指導にも重点を置く必要がある。

（４）生徒のやりとり例及び評価結果

【例１】

ア）生徒のやり取り例

Student A: What did you think about the article?［条件３］
Student B: I think AI is great.［条件２］
Student A: Why do you think so?［条件３］
Student B: Article write AI fridge.［条件１］　No waste food if we can use it.［条件２］
Student A: I think so, too.　Article writes AI makes our lives better.［条件１］
Student B: …　My family using AI … AI 掃除機.　We can get free time.［条件２］…　You want? Well…, you, you …（と言って相手の発話を求める手の動きをする。）
Student A: Yes.　I want AI… cleaner.　AI product is very useful because it helps us.［条件２］

イ）採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student A	a	b	b
	正しい英文で話すことができている。	条件１○（Article writes AI makes our lives better.） 条件２○（AI product is very useful because it helps us.） 条件３○（Why do you think so?等）	条件１から３を踏まえてやり取りしようとしている。
Student B	b	c	b
	誤りがあるがコミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができている。（No waste food if we can use it.など）	条件１○（Article write AI fridge.） 条件２○（No waste food if we can use it.など） 条件３×	質問することはできなかったが，しようとする状況はみられた。（You want?　Well…, you, you …）

【例２】

ア）生徒のやり取り例

Student C: This article is interesting.［条件１］　How about you？［条件３］
Student D: Me, too.　AI great.［条件２］
Student C: Yes.　Article wrote, “AI products have changed our lives and will change ones in the future.”［条件１］　I think so, too.　AI changed our lives now, not only in the future.［条件２］　I using AI in my smart phone.　It give, uhm , choose, it choose my song.
Student D: …　I don't use ….
Student C: Do you know AI products?［条件３］
Student D: No.
Student C: Do you want AI products like AI fridge?［条件３］
Student D: …　I like AI.
Student C: I want AI products, AI fridge and a new smart phone.　AI is good, but has bad points.　It can do many work, so many people can’t work.［条件２］

イ）採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student C	b	a	a
	誤りがあるがコミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができている。（I using AI in my smart phone.など）	条件１○（Article wrote, “AI products have …in the future.”） 条件２○（AI changed our lives now, not only in the future.） 条件３○（Do you know AI products?等） 条件１～３に加え，別の視点から自分の	条件１から３に加え，別の視点から自分の考えと理由を話そうとしている。

		考えと理由を話している。（AI can do many work, so many people can’t work.）	
Student D	c	c	c
	英文で話すことができていない。（AI great.）	条件２を踏まえた発話（AI great.）はみられるが他の条件を満たしていない。	条件１と３を踏まえた話をしようとしていない。

６　評価の総括の考え方について

Student A 及び Student B を例に、これらの生徒の１課から３課の単元終末における活動の観察の結果が以下であった場合の総括の考え方について示す。

Student A

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
１課の結果	b	c	c
２課の結果	b	c	c
３課の結果	b	b	b
パフォーマンステストの結果	a	b	b
総括	a	b	b

１課から３課へ学習を行うにしたがっていずれの観点についても向上がみられることに鑑み，各観点の評価をそれぞれ「a」「b」「b」と総括している。

Student B

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
１課の結果	b	c	c
２課の結果	a	b	b
３課の結果	b	b	b
パフォーマンステストの結果	b	c	b
総括	b	b	b

「知識・技能」については，２課で「a」であったものの，３課を通じて概ね「b」でありパフォーマンステストでも「b」であったことから「b」と総括している。「思考・判断・表現」については，パフォーマンステストでは「c」であった一方で，１課から３課へ学習を行うにしたがって「c→b」という向上がみられることに鑑み「b」と総括している。「主体的に学習に取り組む態度」は，「思考・判断・表現」と一体的に評価するという考え方及び日々の授業における言語活動への取組状況を勘案し「b」と総括している。

７　パフォーマンステスト実施後の指導について

テストの結果を踏まえて，生徒自身が学習の調整をできるように，以下のような指導を行う。

・生徒一人一人に，それぞれの観点の評価結果を示し，できるようになったことを認める。その上で，自分自身で成果や課題を明らかにさせ，次の課に向けた目標をもたせる。

・パフォーマンステスト中にみられた各観点の「a」または「b」の発話をいくつか示し，引用している部分や自分の考えなどを理由とともに話している部分に下線を引かせる。そのことにより，どのような発話をするとよいかを改めて自覚できるようにする。

※このような指導の結果，課題を修正しようとしたかどうかを，後日（学年末等）に振り返らせる。そのことにより，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用することも考えられる。